

平成30年度 学力向上プラン

学校名 中央区立月島第一小学校

学校の教育目標

- ・進んで学び深く考え、行動する子ども
- ・思いやりをもち、助け合う子ども
- ・健康で、ねばり強い子ども

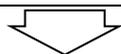
学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

- ・子どもにとって魅力ある授業や達成感・充実感のある授業の実施
- ・指導法の工夫による「学ぶ意欲の高揚」と「学習習慣の確立」
- ・学習規律と基本的生活習慣の定着
- ・互いの違いを認め、尊重し合い、学び合う集団づくりの推進

平成29年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	・文章から必要な情報を読み取り、場面の描写や登場人物の心情、要旨を考えることができているが、文章構成を意識して自分の考えを分かりやすく文章に書き表すことに課題がある児童がいる。	○必要感をもって文章を書く経験が少ない。
算数	・課題解決に対する意欲が高く、既習事項を活用して解決を図ることができているが、考えを式や図、言葉などで表現することが苦手な児童が多い。また、小数・分数の乗法や除法など、基本的な計算に課題が見られる。	○論理的な思考学習をする経験が少ないので説明ができない。 ○整数の計算の習熟が不十分で小数・分数の計算に自信がもてない。
社会	・課題に対する関心が高まり、意欲的に学習に取り組んでいる。グラフや表などの情報を適切に読み取っている。一方で分かったことを関連付けて課題を解くことが苦手である。	○多数の情報を整理して共通点や相違点などの視点をもつことの指導が不十分である。
理科	・実験を通して意欲的に学習に参加しているが、課題に合わせて実験方法を考えることが苦手な児童が多く、主体的に結果を判断し、まとめることが苦手な児童がいる。	○課題を解決する手段を経験や既習事項と結び付けて考えられていない。
体育	・運動に親しみ、楽しく活動している。しかし、体力調査の結果から長座体前屈とソフトボール投げの記録が全国平均を下回っている学年が多い。	○投力や柔軟性に個人差が大きく表れた。普段の遊びでの運動経験の差が体力調査の結果の差につながっている。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
① 学力基盤	月一スタンダードである学習規律(チャイム着席、学習用具、授業終始のあいさつ、姿勢)を徹底し、全児童が学習の構えを身に付ける。
② 授業改善	板書計画やノート指導を徹底し、学習活動、形態を工夫し、問題解決的な学習を各単元に必ず行う。
③ 教員の指導力	統一した指導スタイル(めあて、見通し、自力解決、比較検討、まとめ)で授業を行う。また、教員の指導力向上のための校内研修を年間10回以上行う。
④ 家庭との連携	「家庭学習の手引き」を配布し、自学、自習の内容を充実させる。宿題の提出率を9割以上にし、家庭学習の習慣を身に付ける。
⑤ その他	朝読書(週2回)や読書月間(年3回)を通し、読書の習慣を身に付ける。放課後の学習教室(スタディ月一)や夏季休業中に補習教室(サマースクール)を実施し、個別指導を通し、基礎的、基本的な学習内容の定着を図る。



【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	休憩時間、休み時間になったら次の授業の学習準備をして席を離れる。トイレなどを済ませ、授業の開始を静かに待てるようにする。授業開始と終了が意識できるようにあいさつの指導をする。
取組Ⅱ	学校で統一した持ち物の確認を行い、学習に関係ないものは持ってこないことを徹底する。持ち物への記名と、前日に学習道具を自分で準備する習慣づけをして忘れ物をしないように家庭と協力して指導する。
取組Ⅲ	聞き方名人「あいうえお」、話し方名人「かきくけこ」を各教室に掲示し、意識付けと定着を図る。

②授業改善	
取組Ⅰ	学習指導要領や解説、教科書、指導書、以前の実践を参考に、児童の実態に合った授業プランを構成し、児童が意欲的に取り組める授業にする。
取組Ⅱ	授業後に構成の見直し、児童の授業中の反応、提出物、テスト等の結果分析を行い、児童に「何が身に付いたか」を振り返る。
取組Ⅲ	重点教科である算数科において、児童の関心にあった問題や既習事項の活用が図れる問題の開発、話し合い活動の工夫を行い、年度末には児童が算数を楽しいと感じる割合が8割以上になるようにする。

③教員の指導力

取組Ⅰ	年間指導計画を基に単元を見通した授業計画を立て、毎時間のねらい、中心となる学習活動を明確にし、授業実践をする。
取組Ⅱ	発問の工夫や、ノート指導により児童がめあてをもって学習活動を行い、「わかった」「できた」という満足感や達成感を味わわせる。
取組Ⅲ	手紙や保護者会、個人面談などを通して児童の様子や、学校での取り組みを保護者に伝える。また、保護者が教員に相談しやすいようにし、児童を共に育てる環境づくりをする。

④家庭との連携

取組Ⅰ	手紙や連絡帳を通し、学習状況に関する情報を発信し、学習用具の準備、宿題への取り組み等、児童の学習に臨む姿勢を整える。
取組Ⅱ	「家庭学習の手引き」を配布し、「学年×10分+α」を目安に家庭学習への習慣づけを行う。まずは宿題、さらに自学へと取り組む意欲を育てる。

⑤その他

取組Ⅰ	毎週火・金曜日に朝読書を行う。また、年3回の読書月間ではおすすめの本の紹介や、親子読書を行い、児童の読書に対する興味関心を高める。
取組Ⅱ	会議を精選し、木曜日の放課後に補習教室「スタディ月一」の時間を設定する。現在学習している内容の復習などを中心に個別指導や少人数指導を行い基礎・基本の学力の定着を図る。
取組Ⅲ	夏休みにサマースクールを4日間設定する。1学期の補充学習を行い、つまずき部分の解消を図る。担任が中心となるが全校体制で指導にあたる。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
①学力基盤	<p>8割以上の児童が学習の構えを身に付けることができた。</p> <p>低学年では、タイマーを使って開始時刻の着席を心がけるようにした。高学年になるにしたがって児童同士の声かけで着席できるようになってきている。</p> <p>年度の初めに学年集会を行い、学校に関係ないものを持参しないことや話の聞き方などの指導を行い、共通した目標で指導できた。</p>	<p>遅刻ギリギリの登校が原因で8時20分までに朝の支度を完了できない児童が見られる。また、授業の受け方に課題のある児童が見られる。自分で時計を見て活動を決められるように指導していく。</p>
②授業改善	<p>板書計画やノート指導を徹底することができた。</p> <p>授業中の児童の発表や提出物、テスト等の結果を分析し、児童の苦手部分や、つまづき箇所を分析し、身に付いていないことを繰り返し指導できた。</p> <p>児童の実態に合わせた問題提起や授業展開、まとめ等工夫した授業を行うことで、児童が意欲的に学習に取り組むことができ、92%の児童が「授業の内容がよくわかる」と回答した。</p>	<p>ペア学習やグループ活動での児童同士の教え合いや話し合い活動を取り入れたが、教師が児童の実態把握や、個別の指導が難しい場面があった。</p> <p>学年が進むにつれて個人差が大きくなってきている。よりきめ細かい個別指導をする。</p>
③教員の指導力	<p>児童に1時間のねらいを示すことで、目標に向かって意欲的に活動させることができた。また、評価も明確になり、児童に達成感を味わわせることができた。</p> <p>きめ細かいノート指導を行うことで児童が自らノートで既習事項を確認し、課題解決に取り組み、理解を深めることができた。</p> <p>年間10回以上の校内研修を行い、教員の指導力が向上した。</p>	<p>教師の見通しの甘さから、児童にとってノートにまとめづらかったり、振り返りがしにくかったりする板書になっていることがあった。児童の反応までしっかりと予想し、板書計画を立てるようにする。</p> <p>今年度の実施状況を生かし、来年度の教育計画に反映させていく。</p>
④家庭との連携	<p>「家庭学習の手引き」を全校に配布することにより、個人面談の際に家庭学習の目安について話題になるなど、保護者の家庭学習への意識が高まった。</p> <p>学年便りや週予定、連絡帳などを通して持ち物などの確認を家庭でも行えるようにすることで忘れ物の減少につな</p>	<p>家庭学習を行うことが困難な児童もあり、学校で対応していった。さらに家庭と連携し、家庭学習への理解を深めてもらえるようにする。</p> <p>各児童に合わせた家庭学習の課題を出すことや、保護者が家庭で教える際のポイントを提示する。</p>

	<p>がった。また、宿題の提出率は9割となった。</p>	
<p>⑤その他</p>	<p>スタディ月一では、学習が苦手な児童も意欲的に取り組み、約7割の児童が学習に対して自信がつき、普段の授業の学習意欲も高まった。</p> <p>サマースクールでは、担任と児童、保護者が予定に合わせて時間設定し、普段は時間をかけて教えられないことが指導できた。</p>	<p>スタディ月一などの補習時間の設定が難しい時期があった。時程の変更なども踏まえてやり方を再考し、児童の学力向上につなげる。</p>